

## 2016年度事業報告書

### 1. 障がい者及びひとり親家庭への奨学金支給事業（定款第4条（1））

【2016年度事業計画】（2015年度第3回理事会決定）

①2016年度コープ育英奨学生募集定員計画

- ・昨年46名から15名増加の61名とします。
- ・ひとり親家庭高校生の募集は一般40名（前年27名、内不登校生2名程度）とし、不登校生は応募状況を勘案し育英奨学生選考委員会で一般採用選考と併せ答申してもらおう方式とします。
- ・高等支援学校生の推薦依頼は、従来の開校2年目を開校1年目に変更し、2016年度は新設2校～北海道札幌あいの里高等支援学校（6学級48人）、北海道旭川高等支援学校（3学級24人）を加え、21名（前年19名）を学校推薦で採用します。
- ・2016年度の支給奨学生は新採用61名に在校生86名を加え146名になります。

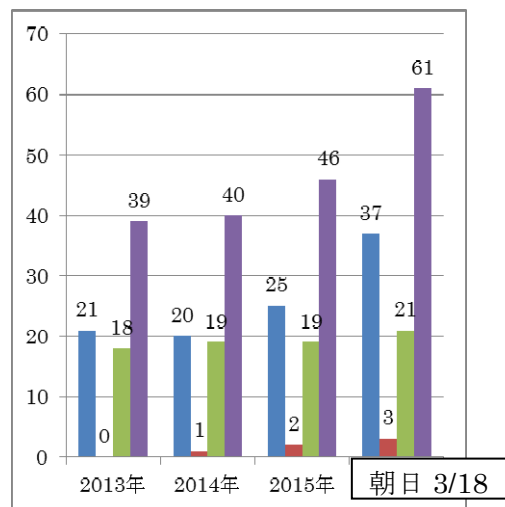
②奨学金支給の予算

- ・奨学金は月額1万円とします（規則第8条：支給金額月額5千円～1万円）。
- ・支給金額は146名に総額1,752万円、前年度1,473万円で276万円増になります。

#### （1）2016年度コープ育英奨学生61名の採用を決定

2016年育英奨学生を3月1日から募集し、4月23日午前開催の奨学生選考委員会の選考・答申を基に、午後の2016年度第1回理事会で61名の2016年度育英奨学生の採用を決めました。尚、不慮の事態に備え、補欠をひとり親3名と不登校生枠3名を決めました。

	2013年	2014年	2015年	2016年	伸長率
ひとり親家庭	21	20	25	37	148.0%
不登校生枠	—	1	2	3	150.0%
高等支援学校生	18	19	19	21	110.5%
採用合計	39	40	46	61	132.6%



#### （2）ひとり親家庭の奨学生（公募）の資料請求まとめ

2016年度は道内在住でひとり親家庭の高等学校、高等専門学校等に入学する1年生40名（公募）と、高等支援学校生21名（学校推薦）合計61名のコープ育英奨学生を募集しました。

- 1) 資料請求（3月1日～3月31日）は314件とこれまでで最大の請求がありました。
- 2) 札幌母子寡婦福祉連合会の広報誌に加え、シングルマザーフォーラム北海道、ここわらねっとのHP、朝日新聞朝刊2段で募集掲載、エルプラザなどでもチラシ設置していただきました。
- 3) ポスター、チラシの配布をお願いした苫小牧、室蘭、函館の母子寡婦福祉会の協力により同地区の申込が大幅に増えました。

#### ■資料請求まとめ

年度	メール	ファックス	ハガキ	電話	小計	ホームページ	合計
2016年	93	43	51	1	188	126	314
2015年	51	33	37	14	135	66	201
2014年	40	36	19	22	117	48	165

《地域別の申請件数状況～ 27市(21)22町(16)2村から申請がありました。》

注( )内は15,14年件数

札幌市 103、(84、66)、江別市 8 (3、6)、石狩市 3 (2、1)、北広島市 5 (6、2)、小樽市 5 (3、1)、岩見沢市 2 (4、2)、余市町 2 (1)千歳市 4、恵庭町 4、南幌町 1、夕張市 1、新篠津村 1
旭川市 12 (8、6)、士別市 0 (3、1)、滝川市 1 (2)、美唄市 3 (1) 深川市 0 (1)、富良野市 1 (3)、当麻町 1、沼田町 0 (1)留萌市 1. 名寄市 1、芦別市 2、神楽町 1、赤平市 1、北竜町 1、清水町 1
函館市 17 (6、7)、北斗市 3 (1)、森町 1、七飯町 2、厚沢部町 0 (1)
苫小牧市 9 (3、1)、室蘭市 16 (4、1)、伊達市 1 (4)、登別市 2 (1)、浦河町 1 (1)、洞爺湖町 1 (1)、様似町 1(1)、白老町 1、日高町 2、新ひだか町 1
帯広市 4 (1)、音更町、幕別町 4、新得町 0 (1)、大樹町 0 (1)、本別町 0 (1)、芽室町 0 (1)
釧路市 7 (3、8)、鶴居村 1、中標津町 0 (1)、
北見市 4 (2)、遠軽町 1、美幌町 1、訓子府町 1、紋別町 1、網走市 1、大空町 1、湧別町 0 (1)、下川町 0 (1)

(3) ひとり親家庭の一般及び不登校枠の奨学生(公募)の応募まとめ

公募のひとり親家庭は過去最高の253名(15年160名)で6.4倍の申込で父子家庭4件、資料請求による応募率は16年81%、15年80%、14年80%

年度	応募計	一般	不登校計	学校認定	財団認定
2016年	253	233	20	20	0
2015年	160	150	10	7	3
2014年	132	122	10	8	2

《233件の応募申請の家庭の状況》15年は150件

項目	平均	備考	項目の説明
年収	260.5万円	昨年 294.4万円 14年 241.1万円	75～642.万円
収入	203.5万円	昨年 204.6万円 14年 192.2万円	収入＝年収－授業料－家賃＋児童扶養手当等－通学費
収入基準点	4.34	15年 4.11 14年 3.9	年収120万円6点を起点に30万円きざみで0.5点の減点。下限は390万円以上で1点。
扶養加算	一人108人、 二人28人、 三人8人	一人76、二人23、 三人4	扶養家族(学生除き19歳未満)1名ごとに～1点加算
収入評価	4.94	昨年 4.94	収入評価＝収入基準点＋扶養加算－生保減算
学科点	3.6	昨年 3.58	学校が個人調査表に記載の学科別点数合計
学業評価基準点	3.77	昨年 3.79 14年 3.28	全科目の平均点、2.5未満1点を起点に0.5刻みで0.5点加算。上限は4.5以上で6点。
特別加算	有24人		学業以外の特筆すべき事項～1点加算
出席加算		欠席3回以内47人	2015年度から廃止～3年間で欠席3日以内、1点加算
学業評価	3.85	昨年 3.91 14年 3.91	学業評価＝学業評価基準点＋特別加算

(4) 高等支援学校生の学校推薦の奨学生 21 名の採用

3月6日に高等支援学校21校に推薦依頼文書を郵送、4月7日～4月20日までに推薦を依頼し、全校から経済的事情からの推薦をいただきました。  
学校の推薦文書で、母子家庭で経済的に厳しい、両親がいるが高齢・病気・失業中など収入が少ないか、不安定で経済的に苦しいなどの記載がありました。

(5) 育英奨学生の1名追加採用

7月16日開催の第2回理事会で、選考結果の通知に際し事務局のミスで不採用者1名に採用通知を送付したため1名の追加採用を議決しました。

(6) 2016年度奨学生(2017年3月30日現在)

奨学生は、4月に2年生が道外転居で1名減り7月の1年生1名の追加採用で昨年より24名増えて146名になり、一般奨学生2年生が10月に逝去され145名になりました。

奨学金給付は1747万円で予算差▲5万円、昨年1471万円に対し276万円増えました。

学年	ひとり親家庭	不登校枠	高等支援学校生	合計
1年生	38名	3名	21名	62名
2年生	24名	2名	17名	43名
3年生	20名	1名	19名	40名
合計	82名	6名	57名	145名

2. 社会福祉施設及び福祉ボランティア活動等への助成事業（定款第4条（2））及び 地域住民相互の助け合い活動への助成事業（定款第4条（3））

①福祉活動助成の予算

- 福祉活動助成は600万円（前年比75万円増）とし、団体助成の募集は、51団体510万円（1件の上限10万円）で前年に対し73万円増です。活動助成の募集は、3団体90万円（1件上限30万円）で前年に対し2.5万円増です。
- 尚、福祉助成審査委員会は審査により、各助成の前記額を総額予算内で変更した答申を行う場合があります。

年度	団体助成		活動助成		合計（千円）	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2013年	39	2,905	2	600	41	3,505
2014年	38	3,440	2	360	40	3,800
2015年	48	4,370	3	875	51	5,245
2016年	51	5,100	3	900	54	6,000

\*4月23日開催の2016年度第1回理事会で地域福祉助成審査委員会の答申により、2016年度募集の「団体助成」を45団体450万円（前年比13万円増）、「活動助成」を総額150万円（前年比62.5万円増）に変更しました。

- ②今後、福祉助成審査委員会を開催し、「2016年度地域福祉活動助成制度の審査基準」を検討し、4月23日開催の2016年度第1回理事会で財団の福祉活動助成の特徴を明確にした審査基準、審査方法及び2016年度地域福祉活動助成の募集要綱を議決します。

- ③募集 4/28～6/6、審査委員の事前審査 6/15～23、委員長副委員長打合せ 7/1～8、助成審査委員会は 7/16 開催を予定します。
- ④第 5 回福祉活動交流会及び 2016 年度福祉活動助成贈呈式の開催  
8 月 6 日（土）午前 10 時開催を計画します。

### （１）2016 年度募集のまとめ

- ①募集期間：2016 年 5 月 1 日～6 月 6 日で募集し、事務局への応募用紙請求は 22 件で大半が HP のダウンロードと思われます。
- ②応募は 83 件（15 年、92 件、14 年 50、13 年 66、12 年 50 件、11 年 71 件）でした。  
内訳は、「団体助成」が 71 件 684.5 万円（15 年 453 万円）、「活動助成」が 12 件 290 万円（15 年 11 件 260 万円）の応募でした。
- ③初めての応募が 65 団体（15 年 60 団体、14 年 30 団体）で構成比 77%（15 年 65%、14 年 60%）と増えました。13 年度から 1 回以上助成した団体は 19 団体（15 年 32 団体です）。
- ④地域別には札幌市の応募が 14 年 70%が 60%に減り、道央圏 8%から 12%になり、旭川、釧路地区が増え帯広も初めて 2 団体の応募がありました。苫小牧はゼロでした。

#### ■2016 年度募集と応募件数 注：（）内は 2015 年度応募件数

助成区分	助成上限	募集数	助成額	応募団体	応募額
①団体助成	10 万円	45	450 万円	71 (83)	684.5 万円
②活動助成	30 万円	5	150 万円	12 (9)	290 万円
合 計		50	600 万円	83 (92)	974.5 万円

#### ■地域別応募まとめ

	応募	14 年	札幌	道央圏	旭川	函館	釧路	苫小牧	北見	帯広
①団体助成	71		43	9	8	2	4	0	3	2
2015 年	81	47	52	11	6	3	2	5	2	0
②活動助成	12		7	1	3	1				
2015 年	11	3	7	1	1		1	1		
2016 年合計	83		50	10	11	3	4	0	3	2
2015 年計	92	50	59	12	7	3	3	6	2	0
増 減	▲9		▲9	▲2	4	0	1	▲6	1	2
14 年申請	50		35	4	4	1	4	1		1

#### ■区分別応募まとめ 注：（）内は 2015 年度応募件数

団体区分		①団体助成	②活動助成	合計	14 年	13 年	12 年
1	障がい者施設運営	18 (25)	2 (0)	20 (25)	6	19	4
2	福祉ボランティア活動	19 (17)	5 (3)	24 (20)	11	20	19
3	社会福祉活動	8 (18)	0 (4)	8 (22)	10	10	17
4	相互扶助・助け合い	9 (8)	1 (3)	10 (11)	9	6	5
5	自助活動	17 (13)	4 (1)	21 (14)	10	9	5
6	その他				3	2	0
合計		71 (81)	12 (11)	83 (92)	50	66	50

## (2) 事務局による事前審査対象外の仕分報告

コープ地域福祉助成の審査基準 (2016 年度第 1 回理事会決定)	
団体助成	<p>下記①～⑦の団体は「対象外団体」とし、募集状況に応じて掲載順に「対象団体」に繰り上げる。</p> <p>①直近で過去 3 年間連続して福祉助成を受けた団体。但し、申請団体の事業が先駆的で地域福祉助成の趣旨に合致し、財政的な基盤の弱い団体には継続して助成又は減額助成をすることもある (2013・14 年度第 3 回理事会)。</p> <p>②収入の 10%以上の繰越金がある団体</p> <p>③収入 3,000 万円以上の財政規模又は継続的に公的資金が中心の団体</p> <p>④設立が 1 年未満の団体</p> <p>⑤連帯組織・中間支援団体</p> <p>⑥事業内容が不明又は恒常的な活動をしていない団体</p> <p>⑦町内会</p>
活動助成	<p>①直近で過去 3 年間連続して福祉助成を受けた団体は「対象外団体」とする。</p> <p>②申請団体を直接支援する内容でない企画や事業は「対象外団体」とする。</p> <p>③案件募集の趣旨から減額の助成はしない。</p>

- ①2016 年度第 1 回理事会で議決した「福祉活動助成の審査手順と審査基準」に基き、事務局では下記のように「対象外団体」の仕分を行いました。
- ②直近での 3 年連続当財団の助成を受けた団体、連帯組織・中間組織、事業内容不明・恒常的活動をしていない団体、町内会に該当する団体はありませんでした。
- ③対象外は、設立 1 年未満の団体、収入の 10%以上の繰越金のある団体、収入 3000 万円以上の財政規模の団体又は継続的に公的資金が中心の団体、などで合計 20 団体でした。

### ■ 対象外基準に該当した団体数

助成区分	設立 1 年未満	繰越金	収入基準	公的資金	対象外団体
①団体助成	1	10	3	6	19
②活動助成			1	1	1
合計	1	10	4	7	20

注：団体により審査外の基準が重複該当する団体があり、合計とは一致しません。

## (3) 審査委員による事前審査のまとめ

6 月 14 日に審査委員に、団体助成対象の 53 団体の「(A) 団体助成事前審査票」、活動助成は 11 団体の「(B) 活動助成事前審査票」、20 団体の「(C) 審査対象外団体リスト」と各団体の申込書を送付し事前審査を行いました。

### ■ 事前審査対象団体

助成区分	応募団体	事前審査	
		対象件数	対象外
①団体助成	71 (83)	53 団体	18 団体
②活動助成	12 (9)	11 団体	1 団体
合計	83 (92)	64 団体	19 団体

- 1) 53 団体の「団体助成」の事前審査
  - ①50%以上の審査委員が「助成可」の判定をしたのは49団体で申請額は454.5万円です。
  - ②減額助成の判定は2名です。
  - ③事前審査対象外23団体の異議の判定はありません。
- 2) 応募12団体の「活動助成」の事前審査について
  - ①50%以上の審査委員が「助成可」の判定をしたのは7団体で申請額は180万円です
  - ②事前審査対象外1団体の異議の判定はありません。

#### (5) 2016 年度地域活動助成審査委員会の答申

7月1日に委員長副委員長打合せを行い、論点を整理し、7月7日(木)地域福祉活動助成審査委員会を開催し、6名が参加(欠席1名) 54団体、614.5万円の助成を答申しました。内訳は下記の通り。

- 1) 「団体助成」は47団体に434.5万円を助成します。

審査は事前審査で「助成可」の判定が50%以上を対象に行い、審議により助成可とした委員が不可に変更したため2団体が50%を割りました。

- 2) 「活動助成」は7団体に180万円を助成します。

審査は事前審査で「助成可」の判定が50%以上を対象に行い、助成可57%の団体が3団体で予算枠150万円にするための審議でも不可判断の団体を決めることができないため、そのまま答申することとしました。

- 3) 付帯意見

助成予算600万円に収める場合、財団が2015年度に「団体助成」をした5団体の団体助成の申請額10万円を一律3万円合計15万円減額することを付帯意見とします。

2016年度は「福祉活動助成の審査手順と審査基準」制定後初の審査で、委員から下記の様な発言・意見がありました。

#### (6) 2016 年度地域活動助成贈呈先の決定

7月16日(土)第2回理事会を開催し、地域福祉活動助成審査委員会の答申通り、54団体に614.5万円(15年度51団体524.5万円)昨年より3団体90万円増の助成を議決しました。

- ①「団体助成」は47団体に434.5万円の助成を議決。  
15年48団体437万円、14年度38団体344万円。
- ①「活動助成」は7団体に180万円の助成を議決しました。  
15年3団体87.5万円、14年度2団体36万円。

#### (7) 審査結果の通知、助成金振込

- ①7月26日(火)全ての応募団体に審査結果を通知し、贈呈団体には7月29日(金)に助成金を指定口座へ振込みました。

2016年度

コープ地域福祉  
活動助成募集

●助成の対象団体  
助成対象は道内の(1)地域活動支援センターなど地域で障がい者を支援する団体(2)地域で福祉ボランティア活動を行う団体(3)一定の広域的な地域を対象に活動する社会福祉団体(4)地域で相互扶助・助け合い活動を行う団体(5)疾病・障がい等の当事者・家族等の自助活動を行う団体です。

●助成内容  
助成対象期間：2016年4月～2017年3月で団体助成金と活動助成金の重複申請はできません。

区分	用途	1件の助成額	助成総額
① 団体助成金	概ね1年以上活動する団体に対し、特定の用途に限定せず、団体の運営費用に充てることができます。	上限10万円	600万円
② 活動助成金	①福祉活動などの団体の立上げ費用(立上げ一年未満を含む) ②地域のふれあい、居場所づくりなど地域が抱える福祉の課題に取り組む先駆的事業の費用。	上限30万円	

締切日 **6/6**(月) 必着

申込み 応募用紙は、ハガキ・FAX・Eメールで団体名、住所、連絡先氏名、電話番号を明記の上、下記に請求下さい。

でもダウンロードできます。

---

公益財団法人 **コープさっぽろ社会福祉基金** 〒063-0831 札幌市西区発寒11条5丁目10-1  
 TEL: 011-671-5719 (月・火・木・金曜日の午前10時～午後3時)  
 FAX: 011-671-5741 Eメール: csap.fukushikin@todock.jp

COOP  
SAPPORO

②「ふくし基金だより 74 号」(11/8 発行)、「ちょこっと 10 月号」(10/1 発行)、HP 等で結果を広報します。

### (8) 第 5 回地域福祉活動交流会 & 2016 年度地域福祉助成贈呈式の開催

8 月 4 日に京王プラザホテルで開催し、35 団体 56 名(16 年度助成 29 団体 38 名、15 年度助成 5 団体 5 名、コープさっぽろ理事 8 名、財団 5 名)の参加により開催しました。木村理事長が基調講演「社会的包摂と市民活動」を行い、参加 35 の福祉団体に活動紹介を各 2 分ずつの短い時間でしたが報告して頂きました。参加団体からは助成給付とこのような場の設定に感謝の言葉が寄せられ、贈呈式が福祉団体に励ましの場となっているようです。

## 3. 社会福祉に関する調査・研究及び啓発事業(定款第 4 条(4))

### ①地域福祉等に関する講演会の開催

11 月に福祉に関するテーマで、コープさっぽろ組合員活動委員会と共同で講演会かフォーラムを開催します。

### ②広報啓発活動は、「ふくし基金だより」73・74 号を年 2 回(5・11 月)発行します。

また、ホームページを更新し事業内容等のお知らせ、各種募集案内及び応募書式を掲載しより多くのアクセスができるようにします。

### ③財団リーフレットを 2016 年 3 月に改訂します。次は、2019 年財団 30 周年を予定します。

### (1) 第 8 回福祉講演会の開催

- ・11 月 10 日、コープさっぽろ中央センターで「日本の教育における格差と貧困～奨学金問題」と題して講演会を開催しました。講師は弁護士西博和氏(北海道学費と奨学金を考える会代表)で、大学における奨学金問題について具体的なお話を伺うことができました。
- ・テレビ会議方式で行い、全体参加は 143 名で札幌会場 80 名、小樽、北広島、旭川、滝川、室蘭、だて、苫小牧、帯広、釧路、北見、網走の 8 会場で 61 名でした。
- ・奨学金問題を考える機会となり、アンケートも 89%が「よかった」と好評でした。(報告集参照)

### (2) 広報啓発活動

「ふくし基金だより」73 号を 6 月に 74 号を 11 月に発行しました。ホームページを更新し、育英奨学生と地域福祉助成の募集案内を行い、申請書をダウンロードで応募の団体が増えています。